



# 遠大勵志

## 福井しあわせ元気国体 陸上競技 少年男子 B



### 100m 第5位 高杉時史くん

第73回国民体育大会「福井しあわせ元気国体2018」の陸上競技が福井県営陸上競技場で行われました。

少年男子 B において、高杉時史くんが、100m予選「6組」1位＝11秒32で準決勝進出を決め、100m準決勝では「3組」2位＝11秒00で決勝進出を決めました。

決勝は11秒33のタイムで堂々の5位。

素晴らしい結果を残してくれました。

【岩手日報 10月7日 記事より】

号砲反応時間はトップ

少年男子 B100mの高杉時史(黒沢尻北高1年)は、けがからの復帰レースで底力を示し、5位に入った。集中力を研ぎ澄まし、号砲への反応時間は全体トップ。終盤で伸びを欠いたが、堂々の入賞を果たした。決勝はこの日3本目のレース。強い向かい風が吹き付ける中、1回目のスタートで他の選手がフライングした。2回目。高杉は、動揺することなく一気に飛び出し、他の選手に先行した。中盤までは上位に食らいつつ気迫あふれる走り。しかし「距離を踏めていなかった」と、不安視していた後半で動きが乱れた。最後は歯を食いしばるようにゴールラインを駆け抜けた。足の疲労骨折の影響で練習が不足していた。9月はスパイクを履いた練習を避け、筋力維持に励んだ。高校生となった今季はインターハイに出場。1年生ながら堂々の活躍を見せた。「インターハイの決勝に進出」「10秒5台を出す」。レース後、力強く目標を語った期待のルーキーは、全国トップレベルを目指して成長を加速させる。

## 北上地区高等学校音楽連盟 「第54回秋の演奏会」

10月8日(月)15:00から、さくらホール大ホールにおいて秋の演奏会が開かれました。参加校は、黒北(吹奏楽・音楽)、北上翔南(器楽・音楽)、西和賀(吹奏楽)、専北(吹奏楽)、黒工(吹奏楽)の北上地区の5校でした。

すてきなハーモニーを有り難うございました。



## 北上市秋季弓道大会

10月8日(月)北上市民弓道場にて行われました。

【男子】

第3位 照井暢人 8中(12射)

【女子】

優勝 角屋美寿紀 8中(12射)

第5位 齋藤里咲 5中(12射)

おめでとうございます!!更に精進しましょう!

# 避難訓練(地震)

## 行いました・・

10月10日(水)15:40、「部活動の最中に地震が起きた想定」での避難訓練を実施しました。1,2年生はそれぞれの部活動の活動場所から第1グラウンドまで、3年生は各教室から第1グラウンドへ移動しました。避難訓練担当からの講評では、この避難に要した時間(生徒人数の把握・報告まで)は6分11秒で、春に実施した避難訓練よりも約17秒の短縮だったということでした。短縮=迅速。条件は同じではなかったので単純に比べることはできませんが、てきぱきと迅速な行動ができたということでしょう。こういう訓練の機会を捉えて、是非ともみなさんには、自宅にいるとき、登校途中、下校途中に突然の災害に巻き込まれたらどうすべきか、どう行動すべきか、どこに避難すべきかなど、家族や友人と話す機会を作ってほしいと思います。

命と安全は大事なものです。自分の身は自分で守りたい!



## 【岩手日報10/7記事

## 世界は今 県人レポートより】

### = ブラジル 平野稔さん(本校45回生) =

(福島大学卒。2003年にサンパウロ市に移住)

笠戸丸からの最初の日本人移民がブラジルのサントス港に降り立って110年。その記念式典が7月、サンパウロ市の巨大イベント会場で華麗に開催された。

サンパウロ州知事や市長、軍司令官らが顔をそろえ、日本からは在ブラジル大使や16県の知事、副知事らが出席。皇室からは秋篠宮家の長女眞子さまが、まばゆい若草色の和服姿で臨まれた。眞子さまの入場の際は出席者が総立ちとなり、会場は華やかな雰囲気になりました。

式典は数々のスペクタクルが繰り広げられ、突然、大迫力の太鼓群が登場した。耳慣れたリズムと掛け声。なんとさんさ踊りだ。まるで盛岡市内のパレードを目の当たりにしているようだった。

沖縄県の獅子舞や徳島県の阿波踊りなど華麗な郷土芸能に加え、素晴らしい創作出し物が続く。それら全てを書き尽くせないのが残念だ。

ショーが一段落すると主催者や来賓のあいさつ、祝辞が続いた。眞子さまのお言葉も拝聴したが、個人的にはサンパウロ市長が祝辞の終わりに眞子さまに向かい、「オヒメサマ アリガトウ ゴザイマシユタ」と締めくくったのに思わずほほ笑んでしまった。なるほど、オヒメサマにふさわしい、実に清楚な方だったのですから。

式典の前後3日間は、ブラジル都道府県人会連合会と47の各県人会主催で21回目の日本祭り(日系団体主催としては世界最大級の規模で約18万人が訪れる)も開かれ、数多くの日本の郷土食も提供された。

式典は主催の110周年委員会の下に、実行委員会を組織して開催。一関市出身で、ブラジル岩手県人会長や日伯援護協会理事長を歴任した菊地義治さんが委員長を務め、式典を成功に導いた。私も実行委員会事務局で菊地さんを手伝ったが、同じ本県出身者としてその活躍は鼻が高かった。式典の出し物は現地の人たちが演技し、日系人以外も多く参加。プロではなく地元民の手によって、日本の伝統文化を日本から一番遠い地で味わえる醍醐味を肌で感じた。

本校の卒業生の方々が、日本各地・海外において活躍されていることを知ると、大いに私たちも励まされます。